



ガンバッテいきます



J A 大浜直売所
「TOWAE」
福村 昌子さん
生産者



J A たまな
トマト生産農家
吉田 純さん

●**丸トマトの他色々**
福村さん宅では、主にハウスで丸トマト4反を作っています。1月からの月はトマトの収穫期です。その合間にセロリや、ブロッコリー、タマネギ、ジャガイモ、レタス、野菜苗なども作っています。肥料は野菜くずやもみ殻を焼いたものに、ぼかし粉等を混ぜて手作りした堆肥を使用しています。

●**新規会員募集中**
福村さんは、JAたまなの「いきりめき店」等の直売所に出荷していました。JA大浜直売所開設に伴い、出荷者の募集があったので参加したとのこと。現在会員は25名ですが、ロケットで徐々に増えてきているそうです。福村さんは「お客様と直接話が聞けることがうれしいです。また、お客さんの中には「おいしかったね」といっても福村さんの買っている」という感想以外にも、野菜苗の栽培・手入れ方法を聞いてもらえる方もいます。直接アドバイスができるし、知らない人でも声をかけてくれる。急な発注は大変だけれど楽しいです」と話してくれました。

●**直売所について**
JA大浜直売所「TOWAE」は、今年11月27日にオープン。「TOWAE」という名前は「永遠とわくわく」の意味で永遠にはばたきように、という願いが込められています。約2千平方メートルの敷地に、農産物直売所と同所内に惣菜等を作る加工場のほか、地元産野菜を使うピザハウスや休憩所があります。また直売所に出したり、食事



▲JA大浜直売所「TOWAE」

●**これからの抱負**
福村さんは「新しい農業の出发点になればいいと思います。自然の力と科学の力をあわせて、子供から年配の方までワイワイと家族のように楽しめる店になってほしいです」と話されました。

●**慌てず、急がず、欲をせず**
これが、吉田さんの生活・経営姿勢です。この様に考えるきっかけとなったのは「約10年前に母親がパソコン簿記を習い、経営収支を日々管理する中で、家族全員が経営実態を共有するようになったこと」です。まずは「生活が第一が家族全員の共通目標になっ

●**トマトの黄化葉巻病**
吉田さんは高校卒業後1年間、県農業研究センターで実習し、当時、東京都多摩市にあった農水省が設立した農業者大学校で3年間学び、帰郷後に就農しました。
現在は、トマト60aと水田1.7haを作付けし、奥さんと両親の4人で農作業にあたりています。

●**慌てず、急がず、欲をせず**
これが、吉田さんの生活・経営姿勢です。この様に考えるきっかけとなったのは「約10年前に母親がパソコン簿記を習い、経営収支を日々管理する中で、家族全員が経営実態を共有するようになったこと」です。まずは「生活が第一が家族全員の共通目標になっ

11月1日に行われたJA熊本県青壮年部大会において、組織活動の実績発表で最優秀賞を受賞した吉田純さん(39歳)を取材しました。
吉田さんは、岱明町鍋地区でトマト生産に取り組み一方、JAたまな青壮年部岱明支部長としても活躍されています。

この管内では、「麗容」という品種のトマトを栽培していますが、吉田さんは8月に種を播き10月に定植後、12月中旬〜6月中旬まで収穫します。昨年は、JAたまなの平均が10aあたり17トンのところ、吉田さんは20トン上げたと言います。
トマト栽培で悩ましいのが黄化葉巻病です。これは、「ナシ」が病原菌を媒介するものですが、病葉に効く農薬はないので、生付期間が40日間のこのシラミを殺すしかないと言います。そこで地域全体で、「ナシ」をなくそうを合言葉に、1か月以上は土を休ませ太陽熱消毒をしたり、ビニールを剥いで雨水を貯めたりして対応しています。



▲初期の黄化葉巻病。次第に黄色に変色し枯れてくる。

たと言います。
「日々の生活に必要な分だけ稼げばいい訳で、まずいくら生活費があるのか。ここから出発です」と語り、「何事も腹八分目で余力を残し、必要があれば120%の力を出せばいい」と言っています。
いま「子供が3人いますが、まだ小さいのでそんなにお金はかからないから、あぐさしく働く必要はない。しかし、大きくなるにつれ教育費等で出費が増えてくるので、その時はガマタス。その時々々の生活状況に応じて働き度合を考えれば良いのではないかと。また、「毎月100%以上の力を出していいたら、長くは続かないし、人間的にもおかしくなるのではないかと、自然体で語る吉田さんでした。」